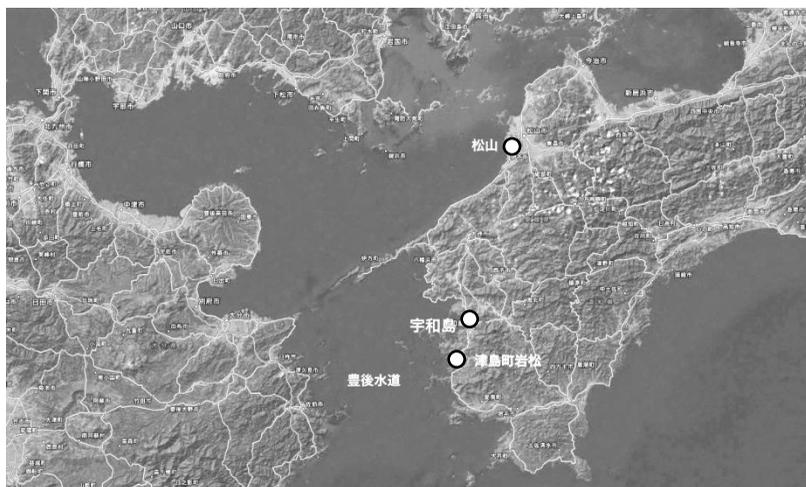


院長 和田誠基が

糖尿病・内分泌の患者様を  
診察するわけ



## 余談 ~その1~

### 四 国 西 南 部

愛媛県宇和島市津島町岩松(当時岩松村)の和田家は清家次男(明治16年生まれ)が養父和田官治から戸主を引き継ぎ、和田庄太郎と名乗ったのが戸籍から知り得る源流です。当時、健康な嫡男が得られなかった家は養子縁組をして、優れた男子を迎え家督を譲り、一家を支えさせるのが家社会を守るために必要でした。和田は豊かな田んぼを意味し、平氏の末裔です(平家と平氏は異なります)。

古代から瀬戸内海、豊後水道を渡る水運は発達しており、荷物の運搬が困難な陸路を使うことは少なかったようです。紀元600年代の白村江(はくすきえ)の戦いでも大和朝廷は瀬戸内海を通り朝鮮半島に水軍を派遣しました。また、河野水軍など瀬戸内の島々には海で生業を支えた人が多く、日振島には藤原純友を核として平安の中央政府に反乱をおこした部族もあります(村上水軍も有名です)。

岩松村より南部、宿毛、中村と呼ばれていた平地(現四万十市)は豊後水道を挟んだ九州宮崎県の一部とともに幡多荘(はたのしょう)と呼ばれていました。鎌倉初期から一条家の荘園であり、応仁の乱以降は京を逃れ中村を根拠地として過ごしました。

明治以前の宇和島地方は湾ごとに土着民がおり、リアス式海岸のため急峻な山を越えることは出来ず、住民は、徒歩圏

内あるいは手こぎ船の移動範囲の中で生活・交流しました。岩松村は宿場町・商業集積地的性格を持ちながら発展しました。昭和初期までの岩松は宇和島以南の中心的な街であり、城下町宇和島に行く宿場でした。現在は津島町岩松と呼ばれています。

庄太郎は妻サトを下灘村(津島町下灘)から迎えました。和田家は初代庄太郎(誠基の曾祖父)、二代目義雄(フィリピンにて戦死)、三代目誠二(元陸上自衛官、2015年永眠)、四代目誠基、五代目雄樹、六代目総司となります。庄太郎は商売を営んでおり(和田商と呼称)、岩松村に色々な不動産を保有していましたが、戦中にほとんどをなくしました(祖母カメヨ弁)。庄太郎は妻サトとの間に4男、3女をもうけ、昭和4年3月(62歳)に永眠しました。和田商は、大正・昭和初期には岩松村で有数の豪商であったそうです。

---

次回、第四部をお楽しみに。

---